

2023年2月

『 雪の香り 』

～ ちょっと異色な 純愛ミステリー ～

塩田 武士

塩田武士は、プロ棋士を目指す無職の男を新聞記者の視点で描いた、『盤上のアルファ』で第5回小説現代長編新人賞を受賞し、デビューした作家です。



今回のオススメ本、『雪の香り』の主人公も新聞記者です。塩田は、10年ほど神戸新聞の記者をしていました。

この本のキャッチコピーに、純愛ミステリーと書かれていました。

塩田自身が京都の大学にいたせいでしょうか、京都の寺院や街並み、お祭りの描写のなかに謎だらけの女の子と、彼女を真っ直ぐに思う新聞記者の物語が展開します。

また、ミステリーではありますが、主人公の恭平と恋人の雪乃の会話は、関西弁が飛び交うテンポのよい漫才のようで、くすっと笑えます。

新聞記者の恭平は、12年前に突然失踪した恋人、雪乃がある事件に関わっていることを知り動揺します。そして、大学時代の記憶と現代が行き来しながら真実へと近づいていきます。

ちょっと、異色とも言えるミステリーですが、雪の降る京都の美しさがこの作品を優しく支えているように感じました。